

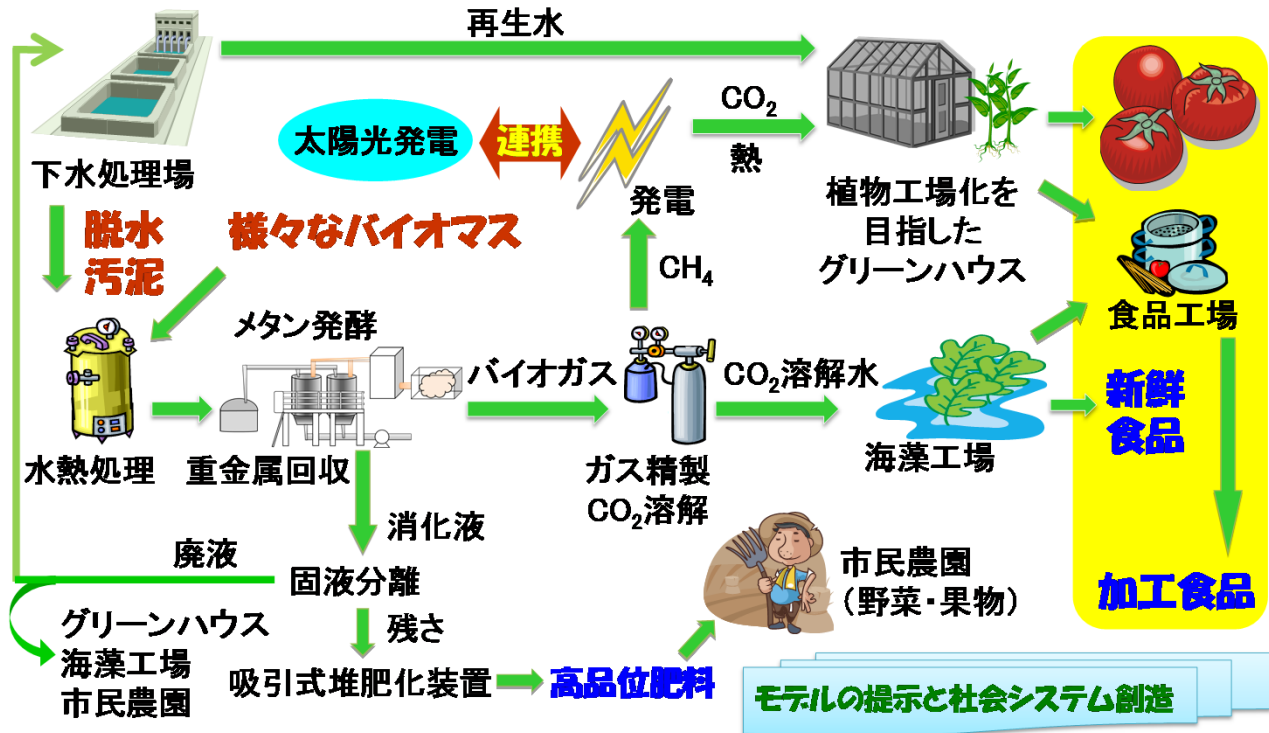
イノベーション部門

応募事例名

豊川バイオマスパーク構想

応募者名 国立大学法人 豊橋技術科学大学、愛知県東三河建設事務所

広域・産学官民・農商工観連携による豊川バイオマスパーク構想



水熱処理装置による下水汚泥や生ごみの可溶化



水熱処理を施した下水汚泥と生ごみの混合消化試験



バイオガス(メタンガス)発電後の排熱・排CO₂を利用した温室トマト栽培

PRポイント!

豊川バイオマスパーク構想は、愛知県の管理・運営する流域下水道の処理場である豊川浄化センター(豊橋市に位置する)をフィールドとして、豊橋技術科学大学、愛知県をはじめ、関係する市・企業・大学・市民らが連携して行っている実証研究(文部科学省 先導的創造科学技術開発費補助金「バイオマス・CO₂・熱 有効利用拠点の構築」(H23-27年度))です。

下水汚泥および生ごみが有している炭素(C)・窒素(N)・リン(P)等を有効利用し、1)バイオガス(メタンガス)発電、2)バイオガスから得られるCO₂の作物栽培・海藻養殖への利用、3)メタン発酵消化残渣の高品位肥料化、4)下水再生水のグリーンハウスでの利用等を実証しています。



施設の設置後、広報活動に努め、各種報道も多くなされたことにより、これまでに、1,000人を超える見学者に来ていただいております。今後、他地域・海外への展開も視野に取り組んで参ります。